

■近づく秋本番を前にルール改正学ぶ

8月27日開幕の第49回北海道学生アメリカンフットボール選手権に向け、北海道学生アメリカンフットボール連盟主催のルールクリニックが7月30日、札幌市西区のちえりあで開かれた。連覇を目指す北海道大、王座奪還を期す北海学園大など9校の主将、主務らが、幸村益利審判部長から今季のルール改正点などを学んだ。

幸村部長は最初に①攻撃チームはスクリメージラインに背番号50番から79番までの選手が5人以上②ボックスは4人以下③正しいフォーメーションの時は審判が握りこぶしのサインを出すーなど基本的なルールをおさらいし、「審判は助言できないが、独り言をつぶやく」とスムーズな試合進行への気配りも打ち明けた。

続いて、全米体育協会（NCAA）のルール改正を受けて、日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会が定めた今年の改正点を紹介。①試合時間短縮のために、前後半の残り2分未満を除き、第1ダウンを更新しても時計が止まらない②1回のデッドボール中のチームタイムアウトは1回だけ、など主な6点を説明した。またプレーについても①ジェットモーションの時にQBからWRへのトスは前パスとみなされ、トスを取り損ねたボールをQBがもう一度前パスすると反則②タックルボックス内のラインマンは、スナップ後の最初のチャージで腰から下へのブロックが許されるーなどを図解を交えて解説した。

幸村部長は最後に「審判にアピールできるのは主将だけ。ルールを守って熱い戦いを」と選手たちにエールを送っていた。（広報委員 塚田博）



実技を交えてルール改正点を説明する幸村部長（右）